

遠望近思

令和8年6月発行 (第73号)

「子供たちとスポーツ」東松山市教育委員会教育委員 寺田 浩之

教育委員に任命され三年目になります。この従事期間に各小・中学校の運動会・体育祭、音楽祭では、教職員の方と子供たちの練習の成果を、学校訪問では、学校長をはじめ教職員の方々の授業への取組を拝見させて頂き、誰一人取り残さない教育に向かってご苦労頂いておりますことに感激しております。この場をお借りし感謝とお礼を申し上げますさせていただきます。



昨今、野球、サッカーをはじめ様々なプロスポーツ選手の海外での活躍がニュースで取り上げられています。30年前では予想できなかったことと思いますが、この理由として、活躍されているスポーツ選手の高い技術とメンタリティは勿論のこと、競技力の向上や育成システムのグローバル化や市場価値の拡大と経済的要因、国や組織による支援体制、先駆者の成功などが挙げられると考えられます。それでは子供たちにとってのスポーツの必要性はどのようなことが考えられるでしょうか。

- (1) 体力・運動能力向上
- (2) 健全な生活習慣の形成
- (3) ストレス解消
- (4) 協調性・コミュニケーション能力・目標達成能力の向上
- (5) 学業成績の向上

皆様もご存じとは思いますが、

- (1)は、定期的な運動によって筋力や柔軟性、持久力を向上させ運動神経を発達させます。
- (2)は、運動習慣が身に付くことで肥満や糖尿病などの生活習慣病のリスクを低減できます。
- (3)は、運動によってエンドルフィンの分泌が活発になりストレスが低減すると言われています。
- (4)は、団体競技では仲間と協力し成功体験を積むことで社会性が発達し、技術向上のための努力や忍耐力の大切さを学び育むことができます。特に核家族化が進み地域のコミュニティが希薄になってきた現代社会においては人と人をつなぐことが重要視されています。
- (5)は、運動により脳を活性化させ記憶力や認知機能の向上、計画性や自己管理能力や学習モチベーションの向上ができます。

私は、45年間、小学生と一緒にミニバスケットボールのスポーツ少年団活動を継続しておりますが、この中で「あいさつ、返事、一生懸命」を大切に、子供たちにスポーツを好きになってもらえるよう工夫をしながら、走力や体幹を鍛えるためのトレーニングを盛り込み、大切なゴールデンエイジの子供たちの運動能力向上に少しでもお役に立てるよう奮闘しております。

子供たち（小・中学生）は学生ですので、学力の向上は必須事項と考えますが、教職員の皆様方もスポーツに好意をお持ちの方がおられましたら、子供たちとの会話の中で「スポーツって楽しそうだね」とか「一度チャレンジしてみない」などの言葉掛けをしていただけたら幸いです。

スポーツ少年団のクラブ化や、中学部活動も地域展開がはじまり、子供たちを取り巻くスポーツ環境が著しく変化する時代の中、スポーツによる「非認知能力の育成」を最大限生かして頂き「学校が、子供たちにとって安心・安全な場で有る」ことを切に願っております。

令和8年度からの第3期東松山市教育大綱の中には、「スポーツの振興」の文言が、第2期から継続される予定です。10年・20年後には、東松山市出身の日本人アスリートたちが様々な競技において活躍していることを想像するととっても心がワクワクします。

また、本誌の内容は東松山市のホームページにも掲載しており、右の二次元コードからアクセスすることができます。

→→→→→



学習指導・学級経営の更なる充実を目指して

令和7年度の東松山市学校教育研究推進委員会では、「東松山の学習スタンダード（改訂版）」「東松山の学級経営スタンダード ver2.0」の実践と成果、実践事例についてグループごとに取りまとめを行いました。南中学校栗田秀人校長先生を委員長、桜山小学校二口校長先生を副委員長として全4回充実した委員会となりました。また、今回は実践事例の作成と合わせて埼玉県学力学習状況調査の分析研究も行いました。

<参加委員>

| | | |
|-----------|---------|-------|
| 委員長 | 南中学校 | 栗田 秀人 |
| 副委員長 | 桜山小学校 | 二口 法子 |
| 委員（Aグループ） | 松山第一小学校 | 江崎 祐介 |
| 委員（Dグループ） | 松山第二小学校 | 半田 北斗 |
| 委員（Cグループ） | 新明小学校 | 浅見 雄大 |
| 委員（Dグループ） | 大岡小学校 | 長谷 隆志 |
| 委員（Bグループ） | 唐子小学校 | 西川 洋充 |
| 委員（Eグループ） | 高坂小学校 | 関根 正憲 |
| 委員（Bグループ） | 野本小学校 | 西川 薫 |
| 委員（Dグループ） | 市の川小学校 | 小高 知成 |
| 委員（Aグループ） | 青鳥小学校 | 萩原 利之 |
| 委員（Cグループ） | 新宿小学校 | 堀口 宏和 |
| 委員（Eグループ） | 桜山小学校 | 須田 智大 |
| 委員（Aグループ） | 松山中学校 | 有馬 侑矢 |
| 委員（Bグループ） | 南中学校 | 竹中 祐亮 |
| 委員（Cグループ） | 東中学校 | 皆川 孝介 |
| 委員（Dグループ） | 北中学校 | 清水 俊也 |
| 委員（Eグループ） | 白山中学校 | 服部 恵里 |

<研究内容>

| | |
|-------|------------------------|
| Aグループ | 学級経営スタンダード実践 |
| Bグループ | 学習スタンダード【主体的な学びのために】実践 |
| Cグループ | 学級経営スタンダード実践 |
| Dグループ | 学習スタンダード【対話的な学びのために】実践 |
| Eグループ | 学習スタンダード【深い学びのために】実践 |



Aグループ（松山中学校・松山第一小学校・青鳥小学校）の取組

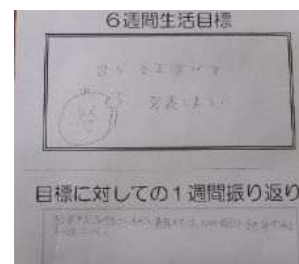
学級経営スタンダードの実践

【取組①】スタンダードP4「朝の会・帰りの会の工夫」 対象 小・中学校

<目的>朝の会・帰りの会で見通しをもって生活を送るために、毎日・1週間・1ヶ月・6週間といくつかの期間で目標設定又は振り返りを行う。

<取組>

- 6週間の目標設定（生活班）
 - ・席替えのタイミングで編成される生活班ごとに、次の席替えまでを見通した目標を設定する。
- 1週間の振り返り（班活動）
 - ・週末の帰りの会に班で話し合う時間を設け、週ごとの生活の振り返りを行う。
 - ・振り返りは継続的に蓄積し、後から見返せるようにする。
- 1か月の生活目標（委員会）
 - ・委員会が設定した月ごとの生活目標を月初めの朝の会で確認する。
 - ・教室掲示による意識化とともに、帰りの会で達成状況を共有する。
- 1日の目標設定（学級全体）
 - ・朝の会で1日の目標を設定し、見える場所に掲示する。
 - ・設定者が1日の様子を確認し、帰りの会で振り返りを発表する。



<成果>

- 朝の会での目標確認と帰りの会での振り返りという生活リズムが学級に定着した。
- 継続的な振り返りの蓄積により、自己調整的に生活を改善しようとする態度の育成につながった。

【取組②】スタンダードP13「学級経営と学習指導」 対象 小・中学校

<目的>個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えて、子供が主体的・対話的に学ぶことができる授業づくりを行う。

<取組>

- 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習過程の設定
 - ・一斉に学ぶ時間と個別に学ぶ時間を組み合わせた単元計画の工夫をする。
 - ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた1時間の流れの工夫をする。
- 子供同士の関わり合いの充実に向けた環境設定
 - ・学習形態の工夫（グループやトリオの活動）をする。
 - ・対話を深めるための教具の工夫をする。
- ICTの活用
 - ・一人一人の課題解決に向けた取組の可視化と共有をする。
 - ・タブレット端末を用いた情報活用をする。



<成果>

- 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習過程を進めていくことで、どの教科でも子供が主体的・対話的に学ぶことができた。
- 子供同士の関わり合いの充実に向けた環境設定により質の高い学び合いができた。
- ICTの活用により子供の考えを可視化し、共有することで教師は子供の課題把握や適切なフィードバックができた。

【取組③】スタンダードP9「学級目標と個人の設定」 対象 小・中学校

<目的>学級目標・個人目標の立て方を工夫することで、学校が目指す子供像を実現する。

<取組>

- 担任・子供・保護者の願いを学級目標へ反映
 - ・年度当初に担任の思いを子供・保護者に伝える。
 - ・Googleformなどでアンケートを取り、「こんな〇年生になりたい」という子供・保護者の願いを担任が集約する。それぞれの願いを基に、知育・徳育・体育の3つの視点で学級目標を作成する。
- 具体的な数値目標を入れた個人目標、毎月の振り返りの工夫
 - ・学級目標を踏まえた子供自身の努力目標を設定する。
 - ・具体的な数値を入れた行動目標を設定する。また、毎月目標を振り返り、必要に応じて設定した目標を更新していくことで、子供が確実な目標達成を通じた成功体験を積めるようにしていく。

<成果>

- 学級目標設定時に、担任が自分の思いだけでなく、子供や保護者の願いを意識しながら設定することができた。
- 個人目標の毎月の振り返りと更新を行うことで、形骸化せず、子供が常に新しい目標に向かって努力していこうとする姿が見られた。



Bグループ（南中学校・野本小学校・唐子小学校）の取組

学習スタンダード【主体的な学びのために】の実践

【取組①】スタンダードP3「主体的な学びのために」 対象 中学校理科

<目的>単元を通してどのようなことを学ぶのかという見通しをもち、子供たち自身が力を身に付けるために、明確な視点をもって各学習活動に臨むことができるようにする。

<取組>

- 等号の意味理解を促す具体物の活用（理科の授業）
 - ・「左辺＝計算、右辺＝答え」という等式観をもちやすく、文字を含む等式における移項の理解が難しい傾向が見られた。
 - ・上皿天秤を用いて左右につり合いの取れた状態を具体的に示し、等号（＝）は「左右が等しい関係」を表すこと、つり合いを保つには左右に同じ操作が必要であることを視覚的・操作的に理解できるようにした。

<成果>

- 上皿天秤の操作を通して、左右のつり合いを保つためには同じ重さを両側に加減する必要があることに気付くことができた。
- 等号が表す意味を具体的に捉えることで、等式の性質の理解が深まった。



【取組②】スタンダードP3「主体的な学びのために」 対象 小学校体育

<目的> 苦手意識をもつ子供が多い体育において、主体的に学ばせるためにはどのような工夫が考えられるかについて研究し、授業改善を行う。

<取組> ○陸上運動「短距離・リレー」(5年生)



〈例〉時間や空間のマネジメント

- ・子供が見通しをもって活動するために、授業の流れを毎時間統一し、無駄なく活動できるようにした。
- ・共通理解を図る場面と、子供が活動する場面にメリハリをつけることで、運動量も確保できた。

○ボールゲーム「的あてゲーム」(2年生)



〈例〉自分に合った教材・教具の選択

- ・的の大きさを大・中・小にすることによって、自分の技能に合った的を選ぶことができるようにした。
- ・投げるボールの大きさも選択させることで、投げやすさが向上し、苦手な子供も的に当てることができるようになった。

<成果>

- 教師が見通しをもつことにより、運動量を確保することができた。
- 場や教材教具の工夫により、一人一人が自分のめあてに向かって活動する意欲を高めることができた。
- 話合いの場面を設定することにより、お互いのよさを認め合ったり、技能のポイントについて見直したりでき、「楽しさ」や「できた」という充実感を味わわせることができた。

【取組③】スタンダードP3「主体的な学びのために」 対象 小・中学校

<目的> 子供たちが主体的に学習に取り組めるよう指導法を工夫する。

<取組>

○導入の工夫(既習事項を振り返りながら)

- ・前時の学習内容またはこれまでの既習事項を振り返り、本時の学習へのきっかけをつくる。

○学習の練り上げの工夫(グループ学習:3人組「トリオ」)

- ・自分の考えをまとめる。次に、伝え合う。時には他グループからヒントを得ながら解決へ導く。

○個別学習の工夫

- ・早く取り組むことができる子供は発展問題に取り組み、理解に困難がある子供には個別に指導にあたる。また、ICTを活用して各自のペースで問題に取り組む。



<成果>

- 導入段階で既習事項を振り返ることにより、前時の学習を踏まえて取り組むことができた。
- 3人のグループ学習では、自分の考えと仲間の考えを効果的に比較検討することができ、「主体的な学び」を促しながら授業を展開することができた。

Cグループ（東中学校・新明小学校・新宿小学校）の取組

学級経営スタンダードの実践

【取組①】スタンダードP21「生徒指導の基礎」 対象 小・中学校

<目的> 外部関係機関との連携を強化して積極的な生徒指導・教育相談活動を行う。

<取組>

○生徒指導上特別の配慮を要する生徒

- ・不登校傾向やいじめ事案後の見守りを行った。
- ・校内各組織やS S W等と校外の関係機関との連携を行った。

○重点取組における工夫等

- ・生徒自身が必要な時に必要な人へS O Sを出す力などの社会的自立につながる力を、令和7年度年度より新設された校内教育支援センター（不登校生徒の居場所として）において充実させていった。

<成果>

- 今年度より校内教育支援センターと連携協力をして、スモールステップで学校へ来られている生徒は多くなった。

【取組②】スタンダードP25「保護者との連携」 対象 小・中学校

<目的> 保護者との面談を、有効かつ適切に行うための工夫や準備を行う。

<取組>

○面談前の情報整理と校内連携（事前準備）

- ・面談に先立ち、子供の様子の聞き取り、支援の方向性の確認、管理職との相談を行い、共通理解のもとで面談に臨んだ。

○保護者と理解を深める面談の実施（面談時）

- ・面談の目的を明確にした上で、家庭での様子の聞き取り、学校での様子の共有、支援の方向性の確認を行う共に話しやすい雰囲気づくりを意識しながら、保護者の考えや子供の家庭状況の理解に努めた。

○面談後の継続的な支援と関係機関連携

（事後対応）

- ・面談後は、定期的な連絡による継続的な支援、必要に応じた支援方策の検討、関係機関との情報交換共有を行い、支援体制の充実を図った。

<成果>

- 保護者との信頼関係が深まり、子供理解に基づく共通理解が深まった。
- 学校と家庭が連携した支援が可能となり、継続的で適切な指導の推進につながった。

○さん保護者との面談

基本的な考え

- ・子どもは一生懸命頑張っている。
- ・保護者と学校が心と考えを共有して子どもの心に寄り添い、関わっていくことのできる関係をつくる。

目標

- ・今後、どんなことができるようになってほしいか
(保護者の思いを聴く)
- ・現在の学校での様子
- ・授業参観後の面談の様子
- (1) 保護者と教師で面談
 - ①家での過ごし方や放課後の過ごし方について話を伺う。
 - ②趣味や興味のあることについて話を伺う。
 - ③家庭でのことや学校生活でできになっていくこと、困っていることはないか。
 - ④担任から現状を話す
- (2) 本人との話し合い

【取組③】スタンダードP22「行事を通じた学級経営」 対象 小・中学校

<目的> 学校行事を学級経営の一部として位置付け、主体的に考え行動できるようにする。

<取組>

○行事のねらいの共有と課題の明確化（事前指導）

- ・ 行事前の学級会や事前学習を通して、ねらいの理解、必要な態度の確認、自分たちの課題やめざす姿の共有を行い、主体的に取り組む基盤を形成した。

○実践的な活動の充実（行事当日）

- ・ 各行事の特性に応じて、実践的な活動を通して多面的な資質・能力の育成を図った。

○振り返りによる学びの自覚化（事後指導）

- ・ 行事後には必ず振り返りの時間を設け、ねらいに対する到達度、身に付いた力、学級全体の取組の様子を客観的に捉えられるようにした。

○学級経営・授業・行事の一体化

- ・ 行事を単独の活動として扱うのではなく、学級経営や授業と関連付けながら、主体的な活動を見守り学級全体の成長につなげる指導過程として位置付けた。

<成果>

○子供たちが行事をイベントではなく、学びの機会として主体的に捉える態度が育成された。

○公共の場における適切なふるまいなど、社会性の向上が見られた。

○自分たちの思いを形にして表現する経験を通して、主体的な学級集団への成長が見られた。

Dグループ（北中学校・松二小学校・大岡小学校・市の川小学校）の取組

学習スタンダード【対話的な学びのために】の実践

【取組①】スタンダードP4「対話的な学びのために」 対象 小・中学校

<目的> ・小グループの中で自分の考えを発表できるようにする。

- ・他の意見を聞くことで自らの考え方を広げる力を育成する。

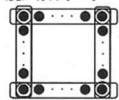
<取組>

○文字を用いた課題解決の設定

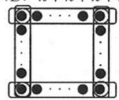
- ・文字を用いて数量の関係を表す課題を設定し、考え方を整理しながら説明できるようにした。

課題：正方形の1辺にn個のマグネットを並べたときマグネットの総数をnで表す。

<A> $n \times 4 - 4$

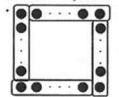


 $n + n + n + n - 4$

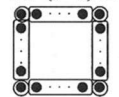


「一辺の個数がn個の辺が4つあり、重なっている角の4個を引けばよい」

<C> $(n-1) \times 4$



<D> $(n-2) \times 4 + 4$



○多様な解決方法の共有（小グループ活動）

- ・小グループで互いの考えを説明し合う場面を設定し、図を用いた説明、数のまとまりに着目した説明、式による表現など、多様な考え方を比較・検討できるようにした。

<成果>

・他者の考えを聞いて、自分が気づくことのできなかった視点が理解できるようになった。

・多様な考え方で話し合いを進めても同じ結論に到達することが理解できるようになった。

【取組②】スタンダードP4 「対話的な学びのために」 対象 小・中学校

<目的> 学校教育目標の実現に向け、子供が主体的に学び、その学びを共有しながら互いに高め合うことのできる授業づくりを推進する。

<取組>

○研究主題の設定

- ・学校課題研究として、研究主題を設定し、共通理解を図り、授業改善を進めた。

○研究体制の整備

- ・授業研究部…日常の授業実践の改善および研究授業の指導案検討
- ・環境整備部…子供の実態調査および学習環境の整備

○授業改善の重点

- ・自力解決場面の充実…子供が自分の考えを、言語・図・実物操作など、多様な表現方法で表す活動の充実を図った。
- ・練り上げ場面の充実…子供同士が考えを表現し合い、比較・検討する学び合い活動を重視した授業改善を進めた。

<成果>

- 多様な表現方法を用いて、自信をもって発表する子供が各学年で増加した。
- 子供同士が考えを共有しながら学びを深める協働的な学習の姿が見られるようになった。
- 主体的に学び、互いに高め合う授業づくりの基盤が形成された。

【取組③】スタンダードP4 「対話的な学びのために」 対象 小・中学校

<目的> 学習指導要領の理念に基づき、算数科において子供が知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等を育みながら、学びに向かう力や人間性を高めることを目指す。

<取組>

○「対話的な学び」を核とした授業改善

- ・図・式・言葉などの数学的表現を用いて説明し合い、多様な考えを比較・検討する学習活動を重視した。

○授業設計の明確化

- ・問いの共有（共通課題の明確化）、自分の考えの明確化（図・式・言葉による表現）、数学的表現の活用（共通言語の使用）、比較・検討の焦点化を柱にして授業改善を進めた。

○生活との関連付け

- ・割引率や面積公式など、日常の事象を数学的に捉え、論理的に説明・応用する力を育てた。

<成果> 算数を通じた「生きる力」の獲得

- 課題解決力、論理的思考力、協働性が育まれ、子供は自ら問いを立て、他者と対話しながら学びを深める力を身に付けることができた。
- 社会生活に必要な合意形成力やコミュニケーション能力の基盤を形成し、生涯にわたって学び続ける力を身に付けることができた。

【取組④】スタンダードP4 「対話的な学びのために」 対象 小・中学校

<目的>

対話を通して新たな気づきを得て、自己の学びを深いものにするための対話的な学びを行う。

<取組>

生活科単元「うごく うごく わたしのおもちゃ」

対話を通して一度作ったおもちゃをよりよいものに改良し、遊び方を工夫した。



輪ゴムが取れないように
ビニールテープをしっかりと
りつけたよ。



テープはどう
つけたの？

<成果>

- 子供の振り返りでは「ともだちが言ったことをためしてみたらとぶようになった。ともだちがおしてくれたおかげでわかった。」という記述が見られ、学びを深めることができた。
- また、事前に教師が予想される子供の反応や質問を考え計画を立てることで、学習活動を活発化させることへと繋げることができた。

Eグループ（白山中学校・高坂小学校・桜山小学校）の取組

学習スタンダード【深い学びのために】の実践

【取組①】スタンダードP5 対象 中学校

<目的> 「知識構成型ジグソー法」による授業を行うことで、一人では十分に答えが出ない問いに対し、多様な考えをもつ子供同士が協力し合うことで、よりよい答えを創り出す。

<取組> 社会科における授業の例 中学校3年生 人権教育

A:コミュニケーションアプリ
の利便性と注意点

B:動画共有サイトの
利便性と注意点

C:オンラインゲーム
の利便性と注意点

A:コミュニケーションアプリ
の利便性と注意点

B:動画共有サイトの
利便性と注意点

C:オンラインゲーム
の利便性と注意点

○いつでも、誰とでも
繋がるができる。
○自分の考えを言いやすい。
●相手が見えない分、
言いすぎてしまう。
●誤解を招くこともある。

○誰でも映像を世界に発信する
ことができる。
○学習面で困ったときに見ると、
分かりやすく説明されている。
●個人情報を公開してしまい、
プライバシー権の侵害と
なり得る。

○常に対戦相手を見つける
ことができる。
●相手に失礼な態度を
取りやすい。
●生活習慣が乱れる。

○利便性
●注意点



<成果> 子供一人ひとりが考えを深め、他者の意見に触れることで学びを深めることができた。また、知識の定着だけでなく、知識を活用し、応用する思考力を身に付けることができた。



【取組②】スタンダードP5 対象 小・中学校

<目的> 深い学びを実現させるために、子供自らが課題を考え、1時間の中で何を学ぶのか主体的にとらえることができる導入を行う。また、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら子供が他者と対話し、多様な考えに触れられるようにする。

<取組>

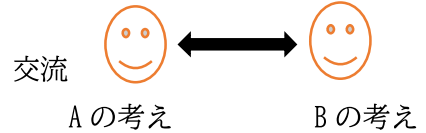
○導入の工夫（課題意識の形成）

- ・既習事項を想起させる発問を取り入れ、多様な考えが生まれるような課題設定を行った。

○展開の工夫（多様な考えの交流）

- ・自分の考えを書いたノートを持って教室を移動しながら説明し合う活動を取り入れ、多様な考えにふれる機会を確保した。

【イメージ図】（交流前）



○終末の工夫（学びの自覚化）

- ・振り返りを行い、考えの深まりを自覚できるようにした。
- ・振り返り内容を全体で共有することで、他者の学びを参考にできるようにした。



<成果>

- 子供一人ひとりが、これまでに自分では考えられなかった解き方や考え方にふれることを「楽しい」と感じ、積極的に他者と対話し考えを深めることができた。

【取組③】スタンダードP5 対象 小学校

<目的> 学習課題に興味・関心をもち自ら課題を見つけ、解決するための見通しをもち、粘り強く取り組める子供を育成する。

<取組>

○意図的な自己決定の場の設定

5年「大造じいさんとガン」
ゴール
「大造じいさんとガン」のみよくをそれぞれの方法でまとめ、伝え合おう！

- ポスター
- ガンの視点で話を書きかえる
- 続き話

「本の帯」にして、物語の魅力を伝えたいな。

これまでに習った「ポップ」にして、物語の魅力を伝えたいな。

○粘り強く取り組むための工夫

先生と相談しながら

友達と相談しながら

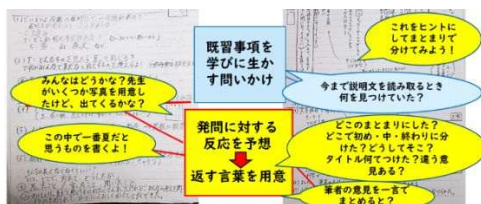
一人でどんどん

やっぱり友達に聞きに行こう

自分で学ぶ場を選ぶ
分からないことを学び合いながら課題解決

○ファシリテーターを意識した教材研究ノート・発問・補助発問

ファシリテーター＝子供の考えを引き出したりつないだり、価値づけをする役割



- ・既習事項を学びに生かす問いかけの用意
- ・発問に対する反応を予想する

子供の発言に対する適切な応答を用意しておく

<成果> 単元のゴールを見通し、学ぶ場を選んだり既習事項を活用したりして、粘り強く取り組めるようになった。自分の考えを書き出し、自分の言葉でまとめられるようになった。

一人一人が安心して学べる授業・学級づくりを目指して

埼玉県学力・学習状況調査は、子供たちが現在の實力を知り、「どれだけ自分の学力が伸びたか」を実感し、自信を高めていくことを大切にしたいと考え、埼玉県教育委員会が実施しているものです。

「学習した内容がしっかりと身に付いているか」という視点に「一人ひとりの学力がどれだけ伸びているのか」という視点を加えた、子供たちの成長していく姿が見える調査となります。

東松山市学校教育研究推進委員会では、各学校の埼玉県学力・学習状況調査結果の分析を持ち寄り、傾向・課題・取組について話し合いました。共通する特徴を紹介します。



【傾向】

- 多くの学校で学校が楽しいと感じる児童生徒が多い。
- 基礎・基本的な学習内容の定着が高い。
- 県平均と近い学力の伸び率が見られる。
- 充実した学校生活や落ち着いた学習環境と学力の伸びが比例している。

【課題】

- ▲学力の中位層が学力の伸びが停滞している。
- ▲学年が上がると学習方略（子供が自律的に学習効果を高めるための計画、復習、理解度の確認などの工夫）の平均値が下がる。
- ▲「読み取って、表現する」総合型の問題の解答率が低い。

【取組】

- ◎学力向上への取組だけでなく、学習方略や非認知能力（自制心・自己効力感・勤勉性・やり抜く力など）を育成する取組も併せて推進していく。具体的には、導入で学習の見通しをもたせ、自力解決で考え方を明確にし、交流で学び方を共有し、振り返りで自らの成長を自覚させることを通して、日々の学習の中で着実に育てていく。

- ◎「東松山の学級経営スタンダード」を踏まえ、学級経営を重視した取組を推進していく。例えば、個人目標の設定や更新、当番活動や係活動の充実などを通して、困っている友達に声をかけたり協力して課題に取り組んだりする活動児童一人一人が安心して過ごせる学級づくりを進める。



